

研究機関名：東北大学

受付番号： 2009-341

研究課題名

胆道癌における KRAS 遺伝子変異率、BRAF 遺伝子変異率に関する検討

研究期間 西暦 2009年 11月（倫理委員会承認後）～ 2014年 10月

対象材料

- 病理材料(対象臓器名 肝臓、胆嚢、肝外胆管、十二指腸、リンパ節など )  
■生検材料(対象臓器名 肝臓、胆嚢、肝外胆管、十二指腸、リンパ節など )  
血液材料 遊離細胞 その他 ( )

上記材料の採取期間 西暦 2000年 1月～ 2014年 10月

対象：東北大学肝胆膵外科（旧第一外科）で、胆道癌（肝内胆管癌（胆管細胞癌）、肝外胆管癌、胆嚢癌、ファーター乳頭部癌）に対して、手術を行った患者様。

上記の対象患者様で、この試験についての質問や、試験参加を希望されないかたは、下記の窓口までご連絡下さい。

意義、目的

EGFR を標的とした抗体の効果について、KRAS 遺伝子変異および BRAF 遺伝子変異のある症例は効果が期待出来ないことが示されている。本研究では、胆道癌における KRAS 遺伝子変異および BRAF 遺伝子変異の割合を求めることとする。

方法

2000年1月から2014年10月までの間に、当院において胆道癌（肝内胆管癌（胆管細胞癌）、肝外胆管癌、胆嚢癌、ファーター乳頭部癌）に対して手術を行った症例を対象とする。

原発巣または転移巣の手術標本あるいは生検標本のホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックまたは薄切切片について試料を提供し、direct PCR 法にて KRAS および BRAF 遺伝子の変異の有無を確かめる。

問い合わせ等の窓口

東北大学病院 肝胆膵外科 林 洋毅

022-717-7205

hiroki@surg1.med.tohoku.ac.jp